

ロータリー財団



学友人道奉仕世界賞

ロータリー財団 学友人道奉仕世界賞



**学友人道奉仕世界賞の目的は、
元プログラム参加者の卓越した業績を称え、
財団プログラムの社会的意義を
広く伝えることです。**

本賞は、ロータリーの理念である超我の奉仕を実証するような卓越した奉仕活動での実績、あるいは仕事上の功績を挙げた元財団学友を称えるものです。ゾーン委員会がゾーンの学友賞の入賞者を選出します。その後、ロータリー財団管理委員会が、ゾーン入賞者の中から世界賞の受賞者を選出します。毎年、全ゾーンに世界賞の候補者を推薦する資格があります。世界賞の受賞者は、国際ロータリー年次大会において表彰されます。本賞は、資格を有するロータリー財団の学友（元国際親善奨学生、研究グループ交換元チームリーダーおよびメンバー、ロータリー・ボランティア補助金元受領者、大学教員のための補助金元受領者、世界社会奉仕助成金元受領者）であれば誰でも受賞の対象となります。

2011-12年度学友人道奉仕世界賞

ジョン・スケリット博士(第9810地区推薦)



ジョン・スケリットさんは、カーリンフォード・ロータリー・クラブ(オーストラリア、ニューサウスウェールズ州)の推薦を受け、1983-84年度国際親善奨学生としてミシガン大学アナーバー校(米国ミシガン州)に留学しました。現在は研究者として、クイーンズランド大学(オーストラリア)農学部非常勤教授を担うかたわら、スリランカの水管理国際研究所で理事長を務めています。また、オーストラリアで最大の農業生産高を誇るビクトリア州では、州政府の第一次産業担当部署で事務次官として活躍しています。さらに、南アジアおよび東南アジアの国々における数多くのプロジェクトのために、医療、バイオテクノロジー、農業、行政分野の幅広い支援提供を行い、津波被害が発生したインドネシアでは、農業特定方法の開発と、食の安全と農業再生のための研修提供に携わりました。現在、ハンプトン・ロータリー・クラブ会員となっており、インターアクトとローターアクトで活動した経験もあります。

2010-11年度学友人道奉仕世界賞

サンディ・ダレンバート氏(第6940地区推薦)



タルボット・“サンディ”・ダレンバート氏は、米国フロリダ州のチャターチ・ロータリー・クラブの推薦を受け、1958-59年度の国際親善奨学生として、ロンドンスクール・オブ・エコノミクスに留学し、政治学を専攻しました。同氏は弁護士であり、元政治家、元教育管理者、元米国弁護士協会(ABA)会長という肩書きを持ち、現在は米国フロリダ州立大学の名誉学長を務めています。これまで無料弁護活動に熱意を傾けてきた同氏は、現代における紛争解決の最前線に立った経験を持ち、東欧における新規民主国家を支援するABAのプログラムである中欧・ユーラシア法律イニシアチブ(the Central European and Eurasian Law Initiative: CEELI)の設立にも尽力しました。同氏は法律分野で最も権威ある数々の賞を受賞しています。

2009-10 年度学友人道奉仕世界賞

ピーター・カイル氏(第7620地区推薦)



ロータリアンであるピーター・カイル氏は、1973-74年度国際親善奨学生としてニュージーランドのウェリントン・ノース・ロータリー・クラブから派遣され、米国バージニア州のシャーロッツビルにあるバージニア大学に留学し、法律を学びました。ワシントンD.C.で、国際法の弁護士となり、世界銀行の主任弁護士としての職を最後に引退した後、現在は世界銀行へのコンサルティングを行っています。自身のキャリア

を通じて、各国で100以上の国際開発プロジェクトにかかわり、強力な経済を発展させるための法的基盤について助言を提供してきました。ロータリアン歴は長く、ワシントンD.C.のキャピトル・ヒル・ロータリー・クラブに所属し、第7620地区のガバナー・ノミニーとなっています。地区学友小委員長として、財団と地域の学友を再び結びつけるために、大きな貢献を果たしました。ロータリー財団学友諮問委員会では委員長を務め、2012年5月にバンコクで開催される学友祝賀行事の共同委員長を務めます。さらに、世界銀行へのRI代表の一人としても活躍しています。活発に活動を続けてきた「アウトワード・バウンド」では、現在、アウトワード・バウンド・インターナショナルの名誉会長となっています。

2008-09年度学友人道奉仕世界賞

アレックス・ブキャナン博士(第9800地区推薦)



メルボルン・ロータリー・クラブの会員であるアレックス・ブキャナン氏は、オーストラリア、ビクトリア州のランバラ・ロータリー・クラブの推薦で1959-60年度国際親善奨学生として米国アイオワ州、エイムスにあるアイオワ州立大学に留学し、農学と理学を勉強しました。ブキャナン氏は、現在も災害時に世界中で利用され続けているオーストラリア高タンパク質ミルク

ビスケットを1965年に開発したことで知られています。また、オーストラリア外務省に勤務していた際に、タイで栄養価の高いベビーフードも開発しました。さらに、「アセアン(東南アジア諸国連合)フード・ジャーナル」の編集者を務めたほか、国連大学の世界飢餓プログラムの創設メンバーでもあります。現在、低所得国出身の国際親善奨学生を対象にRoyce and Jean Abbey農業研修プログラムを提供しているATSEクローフォード基金の理事長を務めています。

2007-08年度学友人道奉仕世界賞

ヤン・ウー・カン博士(第7620地区推薦)



ヤン・ウー・カン博士は1973-74ロータリー年度国際親善奨学生として米国ペンシルベニア州のピッツバーグ大学に留学し、特殊教育を学びました。1976年に視覚障害者として韓国初となる博士号取得者となり、世界各地で障害者の擁護活動を行い、韓国と米国で奉仕プロジェクトに尽力しました。また、米国大統領からの任命を受けて全米障害者協会での任務

を務め、世界障害者委員会副会長、フランクリン・アンド・エレノア・ルーズベルト研究所シニア・アドバイザーを歴任されました。これまでに、大学教授や講演者としても活躍し、数々の著書を出版、自伝「A Light in My Heart」は6カ国語に翻訳され、映画化されました。ワシントンD.C.ロータリー・クラブのロータリアンとして長年にわたる活動をされ、2012年2月23日に逝去されました(享年68歳)。

2006-07年度学友人道奉仕世界賞

フィリップ・レイダー元大使(第7770地区推薦)



フィリップ・レイダー氏が、米国フロリダ州のセント・ピーターズバーグ・ロータリー・クラブから国際親善奨学生として派遣され、オックスフォード大学で歴史を学んだのは1967-68年度のことでした。1997年から2001年には駐英米国大使を務め、北アイルランドの平和調停において重要な役割を果たしました。米国大統領次席補佐官、行政管理予算局副長官を務めた

経歴をもち、赤十字社、デューク大学公共政策研究所、銀行、教育団体、子供のために活動する団体で理事となったほか、Business Executives for National Securityの会長でもありました。米国サウスカロライナ州やオーストラリアの大学で学長を務め、14の大学から名誉博士号を授与されています。現在は、国際的な金融機関であるモルガン・スタンレー・インターナショナルのシニア・アドバイザーを務め、また米国南東部で評価の高いネルソン・モリンズ・ライリー・スカボロー法律事務所の共同経営者でもあります。

2005-06年度学友人道奉仕世界賞

ジョン R. ショット博士(第7450地区推薦)



ジョン R. ショット博士は、米国ペンシルベニア州のワースモア・ロータリー・クラブから派遣された1957-58年度国際親善奨学生で、オックスフォード大学に留学しました。ショット・アンド・アソシエーツの創設者兼会長として、市政機関、NGO、国家の指導者に協力し、研修を行いながら、地方地域社会の発展についてアドバイスを行ってきました。農民に対する国の新しい資金貸し付け方法の確立や、中小企業の業務改善、宗教団体の人道的救援活動のためのネットワーク作りに貢献してきました。20名の国際専門家チームリーダーとして、多目的な協力関係を築くための国家計画を整備し、これを世界銀行とインドネシア政府に提案しました。国際開発問題に関する著書も出版。食糧の生産と配分、農村の再興、難民援助を取り巻く社会的および経済的問題を定義し、解決する方法を学生、政府指導者、非営利団体ボランティアに教育しています。

2004-05年度学友人道奉仕世界賞

カーン・ニューエン博士(第5890地区推薦)



カーン・ニューエン博士は、米国テキサス州ヒューストンのケルシー・シーボールド・クリニックに内科医として勤務し、テキサス大学ヘルス・サイエンス・センターの内科助教授です。自ら設立したヒューストン・ホームレス・ヘルス・クリニックでは現在もボランティア活動を続けています。1987-88年度国際親善奨学生として米国ルイジアナ州ニューオーリンズ・ロータリー・クラブから派遣されたニューエン博士は、シンガポール国立大学で家族計画を学びました。留学中はベトナム人難民キャンプで英語を教え、ベイラー医科大学で医学博士を取得しました。研修医の勤務期間を終えた後、米国平和部隊のボランティアとしてマラウイを訪れ、さまざまな病気の患者を治療したほか、HIV／エイズのカウンセリング・プログラムを考案しました。

2003-04年度学友人道奉仕世界賞

オットー・オステル博士 (第5240地区推薦)



オットー・オステル博士は、研究グループ交換のチームリーダーとして米国カリフォルニア州からブラジルを訪問(1991年)し、25件以上の人道的ボランティア・プロジェクトで活動した経験の持ち主です。現在は米国カリフォルニア州シミ・バレーで外科医として働いています。1950年代と1960年代は、宣教師としてブラジルのジャングルで生活していました。米国に帰国後、米国赤十字社の理事を務めるなど、数々の

地域団体や保健組織にも勤務しました。全国予防接種日の運営を助け、第5240地区のロータリアンがガーナとインドの全国予防接種日に直接参加できるよう支援したのもオステル博士です。数カ国でポリオ監視活動のコンサルタントを務め、マラリア予防については世界的な権威として知られています。米国カリフォルニア州シミ・バレー・ロータリー・クラブの会員で、1999-00年度には第5249地区のガバナーを務めました。同氏は、2011年4月15日に逝去されました(享年81歳)。

2002-03年度学友人道奉仕世界賞

ジェームス A. クリスティアンソン (第5580地区推薦)



ジェームス・クリスティアンソン氏は、米国ミネソタ州ペリカン・ラピッズでスクールバスの会社を経営兼所有しています。地域社会の人々と密接に活動し、移民労働者には、子供の教育に関する法律について情報を提供しています。9カ国語に堪能で、ロータリーやその他、数々の団体でボランティアとして活動する中、世界各地を旅行し、現在も積極的に活動を続けています。1983年にペリカン・ラピッズ・ロータリー

ー・クラブに入会。国際ロータリーやロータリー財団で行ったボランティア活動には、1993年に中国吉林省長春を訪問した研究グループ交換のチームリーダー、第5580地区の青少年交換委員長、そして25人の学生の手入れと派遣、125人の学生に付き添ってブラジルを訪問したことなどがあります。また、ペルーとセネガルで行われた世界社会奉仕プロジェクトにロータリー・ボランティアとして参加し、セネガル、ケニア、ジンバブエ、モザンビークで行われたその他のプロジェクトでもボランティアとなりました。

2001-02年度学友人道奉仕世界賞

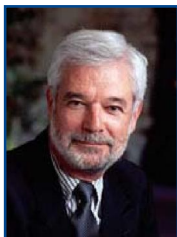
チリノ・フィチェラ博士(第2110地区推薦)



チリノ・フィチェラ博士は、心臓とリウマチの専門医で、イタリアのカタニア大学生理病理学部長です。ロータリー・ボランティア歴は10年以上(1986年～1996年)、インド、ナイジェリア、ウガンダ、マダガスカル(国際ロータリーから発展し、赤十字、国連ユニセフ、米国際開発庁とともに予防接種を行うプログラム)、カメルーン、モロッコ、ギニア、タンザニア、ザイール、アルバニアなど20カ国以上、3大陸で3-Hとポリオ・プラスのプロジェクトに協力してきました。ロータリアン、そしてイタリア赤十字社の役員として、ポリオ・プラス・プログラムの重要性を政府高官に働きかけています。

1999-2000年度学友功労賞

サンフォード J. アンガー氏(第7410地区推薦)



サンフォード J. アンガー氏は、1966-67年度に米国ペンシルベニア州ウィルクスバレー・ロータリー・クラブから派遣されたロータリー財団国際親善奨学生でした。留学先のロンドン大学経済学部では政府について学びました。「The Atlantic Monthly」誌のワシントン編集者、「Foreign Policy」誌編集長、合同国際(UPI)通信社のパリ特派員、「ニューズウィーク」誌のケニア、ナイロビ特派員を務め、長年「エコノミスト」誌の寄稿者を経て、受賞経験のあるナショナル・パブリック・ラジオの番組「All Things Considered」にも出演。International Human Rights Law Group(国際人権法律グループ)、National Immigration Forum(全国移民フォーラム)、Public Diplomacy Foundation(対市民外交財団)の元理事でもあります。米国ワシントンD.C.のアメリカン大学コミュニケーション学部長を経験し、世界で8,300万人以上のリスナーに発信される米国の国際ラジオ局ボイス・オブ・アメリカのディレクターも務めました。現在は、米国メリーランド州ガウチャー・カレッジの学長です。

1999-2000年度学友功労賞

ベリル・ナシャー教授(第9670地区推薦)



ベリル・ナシャー教授は、1949-50年度にオーストラリア、メイフィールド・ロータリー・クラブから派遣されたロータリー財団国際親善奨学生でした。留学先の英国、ケンブリッジ大学では、地質学を学びました。オーストラリアに帰国後、ナシャー教授は、25年に渡って地質学を教え、ニューサウスウェールズのニューカッスル大学の経営にも携わりました。学問的な職場に加え、オーストラリアのBusiness and

Professional Women's Organization(女性専門職のための団体)で若い女性に専門的なキャリアを築くよう奨励しながら、赤十字の活動にも関与してきました。ナシャー教授は、1972年に大英帝国勲章を受勲、1975年には国際連合協会から「ウーマン・オブ・ザ・イヤー」に選ばれ、赤十字社からは奉仕功労賞(1988年)、特別奉仕賞(1994年)を授与されています。

1998-99年度学友功労賞

スーザン・シーガル氏(第5110地区推薦)



米国カリフォルニア州バークレー・ロータリー・クラブから派遣されたスーザン・シーガル氏は、1978-79年度、オーストラリアのクィーンズランド大学で障害者のための理学療法を学びました。1971年に自動車事故から障害者となって以来、障害をもつ人々の支援にすべてを捧げてきました。これまで障害者のための数々の国際教育プログラムを開発、導入し、国際的な地域社会奉仕や異文化リーダーシップ・プログラム

の指導も行ってきました。バークレー・アウトリーチ・レクリエーション・プログラム(米国カリフォルニア州)の女性障害者連合およびモビリティ・インターナショナルUSAの共同創設者です。数々の賞、表彰を受けた中でも、障害者の雇用促進に対する貢献を認められ1995年に授与されたビル・クリントン米国大統領賞は特筆すべき荣誉です。2011年には、チャップマン大学から博士号(Doctorate of Humane Letters)を授与されました。

1998-99年度学友功劳賞

岡田玲博士(第2650地区推薦)



1978-79年度、岡田玲博士は滋賀県の長浜ロータリー・クラブから派遣され、米国カリフォルニア大学で言語療法を学びました。元ポリオ患者として、人々が障害を乗り越えられるよう全力を捧げ、こうした活動が称えられた博士は、滋賀県社会福祉協議会賞、日本知的障害者福祉協会、滋賀県知事賞、厚生大臣賞など数々の栄誉を受けています。障害者にサービスを提供する諸団体のメンバーであり、重度の障害を持つ人々の生活を向上させるためのプロジェクトも指揮してきました。岡田博士は第2650地区学友会を通じて、活発なロータリー活動을 続けており、ポール・ハリス・フェロー、ベネファクター、またロータリーの提唱する米山財団への寄付者でもあります。

1997-98年度学友功劳賞

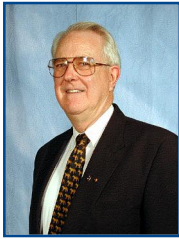
ジョン・クルーガー・ワドロー博士(第5010地区推薦)



ジョン・クルーガー・ワドロー博士は米国ネブラスカ州のノーフォーク・ロータリー・クラブから派遣され、1956-57年度国際親善奨学生として、スイス、ジュネーブの国際問題研究所で国際関係を学びました。留学後は、国際教育と高等教育に関わるキャリアを重ねていきました。アラスカフェアバンクス大学の総長に就任したほか、ネブラスカ、ワイオミング、オクラホマの各大学で教鞭をとり、大学経営にも従事しました。世界紛争問題解決について、台湾経済省のために講義したこともあります。1991年、ワドロー教授は、米国アラスカ州のフェアバンクス大学と旧ソ連のヤクーツク州立大学との間に交換の協定を結び付けることに成功しました。また米国とベトナムの国交が正常化してから初めてベトナムに派遣された代表団の1人として、貿易協定と教育交換の合意に努めました。

1997-98年度学友功劳賞

ジョン・ギルロイ・ソーン博士(第9830地区推薦)



ジョン・ソーン博士はオーストラリア、タスマニア州のノースホバート・ロータリー・クラブから派遣され、1978-79年度ロータリー教員として米国ノースリッジのカリフォルニア州立大学で障害者教育を教えました。母国オーストラリアでは盲学校を創設し、初のオーストラリア手話辞典の編纂に携わりました。オーストラリア視聴覚障害者学校団体の議長、ならびにオーストラリア聴覚障害者協会会長を歴任しています。

ロータリアンであり、地区ガバナーも経験したソーン博士は、指導者研修を目的に、さまざまな障害を持つ青少年を米国に派遣するマッチング・グラントのプロジェクトを取りまとめたこともあります。ノースホバート・ロータリー・クラブに所属し、2002-04年度国際ロータリー理事会をはじめ数々のRI委員会で活躍してきました。ソーン博士が共同設立した「ジョブマッチ」では、障害者の雇用を支援しています。

1996-97年度学友功劳賞

ロベルト・アルバレス・デル・ブランコ博士

(第2210地区推薦)



ロベルト・アルバレス・デル・ブランコ博士は、アルゼンチン、ブエノスアイレスのポリバル・ロータリー・クラブから派遣され、1978-79年度にロータリー財団国際親善奨学生として米国のカリフォルニア大学バークレー校で経営学を学びました。以来、アルゼンチン、米国、スペインの大学で教鞭をとっています。現在は、スペインのIEビジネス・スクールの教授、カリフォルニア大学バークレー校、ニューヨーク大学、ロック

フェラー大学の客員教授です。これまでに、ニューロマーケティング、ブランド管理、戦略的市場管理に関する著書を12冊出版し、科学雑誌では150以上の記事を執筆しました。世界経済フォーラムではフェローとなり、学術的功績に対して8回栄誉を受け、「ベスト・プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」にも選ばれました。ブランディングの分野において世界的権威の一人とされています。マーケティングの専門家として協力したプロジェクトでは、1992年夏のバルセロナ・オリンピック招致を成功させました。ロータリアンとなったブランコ博士は、バルセロナ・コンダル・ロータリー・クラブの初代会長にも就任しました。

1996-97年度学友功劳賞

バイロン R. ト라우ガー氏 (第6780地区推薦)



バイロン R. ト라우ガー氏は米国テネシー州オークリッジ・ロータリー・クラブから派遣され、1969-70年度国際親善奨学生としてペルー、リマのサンマルコス大学に留学し、ラテンアメリカの歴史と文化を学びました。テネシー州ナッシュビルの法律事務所でも共同経営者となったトラウガー氏は、地域社会奉仕、指導者育成、学生の交換を通じた国際理解の推進をめざす熱心な活動家です。アパラチア(米国南東部)

の貧しい地域で人々の生活を向上させるために立ち上げたプロジェクトでは、現在も活動を続け、ホスピスの設立、家庭内暴力防止プログラムの支援、教会の協力を得て未婚者を集めた地域奉仕団体設立にも貢献しました。ロータリーでは、テネシーから派遣される新しい財団奨学生へのオリエンテーションにも積極的に取り組んでいます。トラウガー氏は米国テネシー州ナッシュビル・ロータリー・クラブの会員です。

1995-96年度学友功劳賞

ドナルド・ボビアッシュ博士 (第5550地区推薦)



ドナルド・ボビアッシュ博士は、カナダ、サスカチュワン州のワトラス・ロータリー・クラブから派遣され、1982-83年度国際親善奨学生として、セネガル、ダカールの国立行政学院で行政学を学びました。キャリアを開始して間もなく、発展途上国がどのように互いを支援できるかを説いた著書を出版しました。

1990年代初頭には外交官としてパキスタンに配属され、アフガニスタン難民の環境改善やアフガニスタン北部で緊急食糧確保に努めました。2004年8月から2006年8月まで、駐ガーナ高等弁務官および駐トーゴカナダ大使、2006年から2009年までは東京の在日カナダ大使館公使兼副館長を務め、現在はオタワにあるカナダ外務・国際貿易省のアフリカ担当局長として勤務しています。

1995-96年度学友功劳賞

L. M. シンヴィ博士 (第3050地区推薦)



L. M. シンヴィ博士は、インドのジヨドプル・ロータリー・クラブから派遣され、1953-54年度国際親善奨学生として、米国マサチューセッツ州ケンブリッジのハーバード大学で法律を学びました。著名な法学者、憲法の専門家として、インド最高裁判所弁護士会の会長ならびにインド国会の議員を務めました。長年にわたり人権の擁護者として活動してきたシンヴィ博士は、世界人権大会の議長を務め、国連人権小委員会にも貢献してきました。キリスト教とユダヤ教の対話を推進する International Council of Christians and Jews から異教間貢献賞を授与されるなど、その活動が称えられ数々の賞を受賞しています。シンヴィ博士は2007年10月6日、インドのニューデリーで享年76歳で亡くなりました。

ロータリー財団 学友人道奉仕世界賞



基準

- 候補者は卓越した人道奉仕を行い、その職業において最高の業績を残した人でなければなりません。
- 候補者は世界市民として奉仕し、国際舞台で影響力を及ぼした人でなければなりません。理想的な候補者の奉仕および職歴は、地元地域社会を超え、国レベルあるいは国際レベルで人々の生活に良い影響を与えたものでなければなりません。

推薦の指針

- ロータリー地区はそれぞれ1人の候補者を推薦することができます。候補者は、ゾーン内のどのロータリー地区に居住、または留学、奉仕したのでも差し支えなく、またその地区から派遣されたのであっても構いません。
- 資格のある推薦者は、元管理委員、現地区ガバナー、学友小委員会委員長、ロータリー財団学友コーディネーター、ロータリー財団地域コーディネーターです。
- すべての推薦には、現地区ガバナーの署名がなければなりません。
- 推薦書には、候補者がこの賞にふさわしい業績を上げたことを明確に記述しなければならず、そのための補足書類や資料を添えることが極力望まれます。
- 推薦の提出資料一式には、推薦書式、履歴書または略歴書、本人の奉仕における功績に関する詳述書、候補者のデジタル写真または現像写真が含まれます。
- 資料一式は、極力電子ファイル形式で送ることが望まれます。

提出締切日

- ゾーン選考委員会は独自の締切日を設定します。ゾーン内の地区からの推薦書類一式はすべて、担当するロータリー財団地域コーディネーターが委員長を務める選考委員会に送付する必要があります。
- ゾーンが推薦できる候補者は1名のみとなります。

各ゾーンが選んだ候補者はゾーンの入賞者とみなされ、ゾーン研究会などの重要なゾーン行事で表彰すべきです。

資格

- 候補者は適切なプログラムの義務要件をすべて満たしていません。
- 世界賞受賞者は、RI国際大会において、本人が賞を受け取る人でなければなりません。
- 本賞を受賞できるのは、1人1回限りです。



Alumni Relations
The Rotary Foundation
alumni@rotary.org
www.rotary.org/foundation/alumni

学友人道奉仕世界賞 - JA